

2023
6



写真①筆や墨を使った実験の様子

2023年コレクション展Ⅰ「近現代の書」展関連 こどものイベント

「書の世界へようこそ！」

- 開催日時：2023年6月24日(土)
- 参加者：こども12名、大人12名
- 対象：小学生～中学生
- 場所：アトリエ2、常設展示室6

■1 学芸員によるレクチャー

展覧会を担当した剣持学芸員が、兵庫県は書の盛んな地域で、展示室には兵庫にゆかりのある作家の作品や書に関連する絵なども展示していると紹介しました。書写はきれいな字をかくことを目的としますが、今回は学校や習字教室ではやらないことに挑戦して、書が面白いということを知ってほしいとお話しました。



写真②レクチャーの様子

◇こどもの感想（※原文をそのまま紹介）

- ・はやくふでをうがしたらかすれて、ゆっくりうごかしたらかすれないのがおもしろかったです。
(小学2年生)
- ・最初、書を見たときはなんじゃこりゃ？と思ったけど、かいてみたらよく分かっておもしろかった。
(小学5年生)

◇保護者の感想

- ・書の作品の見方がよくわからなかったが、実験後に作品を見ると、今まで気付かなかったことも見えて楽しかったです。
- ・もう一度作品の前で学芸員さんからお話を聞いたり、こども達から質問をする時間がとても良かったです。

■2 鑑賞①

最初に、どんな書の作品があるのか展示室で鑑賞しました。「これは何てかいているのかな?」「この字は読めるね」など、気づいたことをお話ししながら見ていました。森田子龍作《虎》という作品(写真③の作品)が気になった人が多く、「なんでこれが虎なの?」「本当に虎ってかいているの?」と、とても不思議そうにしていました。また、字の他にも山など風景画に興味を持った人もいて、「墨でかいているからなんだかリアルに見える」と感想をお話していました。



写真③ 鑑賞の様子

■3 いざ、実験!!



写真④ 実験の様子

どんな実験をするのか、みんな興味深々の様子でした。

まずは、筆の毛の根元まで墨をつけて太い線をかいていきました。初めて墨を使う小学1・2年生もためらうことなく思い切って筆を動かしていました。次に、筆先を使って細い線、1番早い線とゆっくりの線を続けて試していきました。早くかいた線はかすれて、ゆっくりかいた線はにじんでいることに気づき、「これは鉛筆では表現できないね」と剣持学芸員が教えてくれました。最後に、試したいろいろなかき方を組み合わせて自分の名前の1文字をかきました。

「いろいろな線の組み合わせ次第で何通りもできる。書の表現には無限の可能性がある」と、剣持学芸員がお話しました。

■4 鑑賞②

展示室にもう一度行き、改めて作品を鑑賞しました。最初に来た時は何か分からなかった《虎》の作品を見て、「虎の後姿をかいている」「顔だけをかいている。周りにはふわふわしたもの」「虎のかっこよさをかいている」「虎というタイトルに意味はない」などたくさん意見が出ました。また、「自分でかいてみて作者の気持ちが分かる気がする」など感想をお話してくれました。最後に剣持学芸員が「どう見るかは自由。いろいろな見え方ができるのも書の作品の魅力です。」と伝えました。



写真⑤ふりかえりの様子

□展覧会担当からのコメント

今回のこどものイベントでは、小学生12名に参加をいただきました。毛筆の経験の有無に関わらず、筆と墨を使って様々な表現を実験しました。手を真っ黒にして、時には髪の毛まで使って書を楽しむ様子を見て、担当者も改めて書の可能性と魅力に気づかされた時間となりました。実験の前には展示室で作品鑑賞の時間を設け、実際に筆と墨を使った後は感じ方にどのような変化が起こるか?という試みでは、自らの経験をもとに自由に書作品について考え、実験前に比べてたくさん素敵な感想が生まれました。このような活動がきっかけとなり、書という芸術を身近に感じていただくことができれば展覧会担当者として幸いです。
(剣持学芸員)